

|       |   |
|-------|---|
| 館名    | 宮島杉之浦市民センター   |
| 事業名   | <p>杉之浦の中心で国際交流を叫ぶ！！</p> <p>～フィリピンの家庭料理を学び、楽しむ～</p>  |
| 趣旨    | <p>杉之浦地区には、多くのフィリピン出身の方が生活をしている。しかし、近くに住んでいても、お互いのことほとんど知らない。せっかく、同じ地区に住んでいるなら、少しずつお互いを知っていききたい。今回、はじめてフィリピン料理を学ぶことにより、交流を深める。</p>  |
| 特徴    | <p>○杉之浦地区には牡蠣打ち場があり、そこにフィリピンの方が働きに来ており、相当数の世帯が存在し、コミュニティもある。</p> <p>○地元の住民との交流はほとんどないため、災害などが発生した場合に、情報が得られず、危機に取り残される恐れがある。(言葉も、顔も知らないということでは、地域づくりを推進する上で、障壁となる可能性がある。)</p>   |
| 事業の様子 | <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>ビーフ・カルデレータ<br/>(牛肉の煮込み料理)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>みんなで一緒に調理<br/>揚げ具合はどうか？</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>みんなで一緒に食べる<br/>言葉は？分からないけど。</p> </div> </div>   |
| 活動実績  | <p>【実施期日】<br/>平成28年6月19日(日) 10:00～14:00(実施済)</p> <p>【実施場所】<br/>宮島杉之浦市民センター(廿日市市宮島町993番地1)</p> <p>【実施機関・団体等】<br/>宮島杉之浦市民センター、廿日市市国際交流協会(共催)</p> <p>【対象者及び参加者数】<br/>57名(杉之浦地区は小さな集落で、杉之浦市民センター主催事業においても、平均10名参加があれば、大盛況の評価を受けるぐらいだが・・・)</p> <p>【事業費】<br/>参加費:大人ひとり300円、子ども100円(基本的には食材費)</p> <p>【参加者の声】</p> <p>○こんなにも、フィリピンの家族、世帯があったのかと驚いた。(地元の人)</p> <p>○通訳の人を通じて、楽しく話げできた。(地元の人)</p> <p>○調理の仕方をフィリピンの3人のリーダーに教えてもらったが、分かりやすく、優しく教えていただいた。こんな人たちが近くにいたなんて。(地元の人)</p> <p>○地元の人と知り合うことができる機会を作ってくれた皆さんに感謝したい。今後も機会を設けていただいて、いろんな交流の仕方を進めてほしい。(フィリピンの人)</p> <p>○もし、他のことをやるにきでも、声をかけてほしい。もっと、地区の皆さんと仲良くしていきたい。(フィリピンの人)</p> <p>【自由記入】</p> |

(準備～当日までの流れ、アイスブレイクの内容、使用した教材、参加者から出た質問や意見、グループワークのときの雰囲気、工夫した点やアイデアなど、他の公民館等の方の参考になるよう具体的に記入してください。)

○準備～当日までの流れ

- (1) 市民センター職員、国際交流協会事務局職員で、2時間程度でできる現地料理を選択し、食材の手配をフィリピンの3人のリーダーに手配をお願いする。(一人300円程度の負担でできる料理)
- (2) 市民センター調理室にある調理器具、食器などの数量や稼働するかどうかを事前に確認する。
- (3) フィリピンの人たちが参加しやすい日にちの選定。(牡蠣打ち場における休日を事前に聞き取りをして、日にちを設定。)
- (4) 市民センターだより、国際交流協会だよりなどでPR、募集を行う。(地元約10数名、フィリピンの家族など40名程度)
- (5) 当日、地元の人用とフィリピンの人用の二手に分けて受付。(言葉【主にタガログ語】が分からないとか、文字が読めないなどの手違い防止のため)
- (6) 当日までに数名の通訳の人を用意。(調理台、食事テーブルなど、数グループに分かれて、交流会を進めるため。)

○アイスブレイクの内容

- (1) 調理台ごとに分かれて自己紹介。(各台に一名は通訳を入れる。)
- (2) 基本的にフィリピンの人たちは「性格が明るいため」、すぐに調理を通じて共同作業。
- (3) 調理⇒実食⇒ゲームということで進め、ゲームではフィリピンの人々が知っている日本の歌「幸せなら手をたたこう」をみんなで歌う。その後、フルーツバスケットなどのゲームを入れて楽しんだ。地元の方は高齢の方も参加していたため、実食とゲームは2時間以内に収めた。

○使用した教材

レシピのみ(A4版1枚のみ。その他は国際交流協会の皆さんが流れをアドリブで、作ってくれる)

○工夫した点

- (1) タガログ語が第1言語であるため、通訳を数名揃えることに苦労した。(国際交流協会)
- (2) 地元の人とフィリピン人が、共通して楽しめて、かつ簡単なことを思いつくのに時間がかかった。(日本の歌、フルーツバスケットなど)
- (3) 初めてのことでもあるし、高齢者の方もおられるので、あまり時間を延ばさない。(調理を除いて、最大2H以内で終了)
- (4) お互いの名前を知るため、ガムテープを胸に貼り、「カタカナか、ひらがな」で名前を記入し、分かりやすいようにする。(文字が分からない場合は通訳の人が記載。)
- (5) 楽しい中にも、「お互いを知ろうとする努力の姿勢」を示すこと。(次回以降、別な企画、事業ができるように交流を真剣に。)
- (6) 企画～実施まで4カ月間、牡蠣打ち場の状況、フィリピンの人たちのスケジュール、何を好み地元の人に何を望むかなどを、徹底して聞き取りや調査を行った。(例えば、休日は日曜日が主。また、労働は朝早く～夕方4時頃で、その後はフリー。夏場は、母国に帰る世帯も多く、地域づくりの上では習慣を知る必要もある。フィリピンの大人はほとんどタガログ語しか理解できないが、子どもは宮島学園小中学校で学んでいるため、日本語がある程度理解できる。そのため、簡単な通訳は子供にもお願いできるとか…。)

|              |  |
|--------------|--|
| <p>成果と課題</p> | <p><b>【成果】</b><br/>                 ○今まで交流会をすることもなかったため、「初めてできたこと」が成果。<br/>                 ○地元の人、フィリピンの人と顔を知ることができ、地域づくりの第1歩とすることができた。<br/>                 ○「次回もやりたいね」という言葉が出たことが成果。</p> <p><b>【課題】</b><br/>                 ●言葉が最大の障壁(タガログ語。英語なら、ある程度話ができる人もいるが、それが通用しない。通訳の力なしでは、他の企画・事業を含めて、前に進めることが難しい。)<br/>                 ●市民センターの主催講座から、地域づくり、防災などへの参加にかかる地区全体の協力体制へつなげるための方策が、まだ見当がつかない。</p> <p><b>【今後の予定と想定】</b><br/>                 (1)半年に1回程度、「カローリングやグランドゴルフ」など、ルールさえ理解できれば、誰でも体を動かして、楽しめるレクリエーションを行ってみる。<br/>                 (2)毎年秋に恒例の「宮島市民センターまつり」にも、出店してもらうなど、様々な機会をとらえて、地域の人たちとの交流を実現したい。(休日である日曜日に無理なくできることをやってもらう。)<br/>                 (3)交流が進めば、地域の町内会長などとの世話人との会合にも出席してもらい、地域づくりや防災の知識を蓄積できるような関係まで深めていきたい。</p> |
| <p>連絡先</p>   | <p>宮島杉之浦市民センター<br/>                 〒739-0501 廿日市市宮島町993番地1<br/>                 電話 0829-44-2018 ファクシミリ 0829-44-0538<br/>                 電子メール miyajimasuginoura-cc@city.hatsukaichi.lg.jp</p>  |